

報告者と報告タイトルは下記の通りである。

なお、詳細については日本人口学会編『人口学研究』古今書院を参照のこと。

1. 丸山洋平（札幌市立大学）「福井県高浜町の人口移動と家族形成—原発関係労働者の就業移動の影響」
2. 工藤 豪（日本大学）「地方自治体の結婚支援における特徴と課題」
3. 佐々井司（国立社会保障・人口問題研究所）「外国人人口の動向と多文化共生の地域づくりに関する一考察」
4. 松田茂樹（中京大学）「アジア諸国における少子化の特徴と背景要因」

本部会では、行政担当者や大学院生を含めた若手研究者の参加も少なくない。学際的で自由な議論ができることが本部会の特徴といえよう。（佐々井 司 記）

モロッコ王国アカデミー第46回会合

2019年12月16～17日に、モロッコの首都ラバトでモロッコ王国アカデミー第46回会合が開催された。モロッコ王国アカデミーは、1980年に創設された、モハメッド6世国王の直属機関であり、モロッコにおける最高位の科学文化研究交流機関である。近年の年次会合では、世界の地域をテーマに2017年はアフリカ、2018年はラテンアメリカに関して開催されており、2019年の第46回会合はアジアをテーマとして開催された。アジアのうち、中国、インド、日本についてそれぞれセッションが行われ、「思考の水平線としてのアジア—日本における近代化の経験」と題するセッションで、筆者は日本の近代化と人口政策に関する講演を行った。

会合では、モロッコの日本研究者に加え、日本における名だたるイスラーム研究者である森本公誠東大寺長老や山内昌之東京大学教授が、日本の社会改革の先鞭をつけた例として聖武天皇、徳川家康を取り上げるなど、「近代化」というテーマにとどまらない比較文明論の展開があった。

会合の後には、モロッコの高齢者施設や保健省人口局を訪問した。モロッコの合計特殊出生率は2018年で2.38に低下し、女性の進出と共に今後さらに低下すると見込まれている。急激な出生率の低下に伴い、人口高齢化のスピードも速く、65歳以上人口割合は2018年で7%と高齢化社会に突入し、今後22年で14%になると予測されており、日本よりも早いスピードで高齢化が進行することとなる。モロッコではアジアの高齢化が進む国・地域と同様、高齢の親は家族で見るのが通例であり、地域をベースにした高齢者ケア支援のあり方が模索されている。（林 玲子 記）

オックスフォード大学シンポジウム「総務省統計局における利用可能データとリソースについて」

2020年1月9日、オックスフォード大学ナッフィールド校（Nuffield college）にて、同大学社会学部 GenTime プロジェクト、日本学術振興会ロンドンオフィス、英国経済社会研究会議（Economic and Social Research Council）の共催によるシンポジウム「総務省統計局における利用可能データとリソースについて（Introduction to Data and Resources Available at Statistics Bureau Japan）」が開催された。筆者は翌10日より同校で開催されるワークショップに参加する予定であったことから、